

未来へつなぐ学校づくり説明会 結果概要

1. 教育委員会からの説明概要

座間市学校再編計画骨子案の概要や再編の必要性等について、配布資料に沿って、参加者へ説明しました。

今回の説明会では、各エリアにおける大きな方向性をお示ししましたが、「〇〇学校区の変更」や「〇〇学校の統廃合」などの具体的な再編プランについては、素案以降でお示しする予定としています。

2. 開催日程、場所

- ①令和7年10月28日（火）午後6時30分～8時 イオンモール座間（イオンホール）
- ②令和7年10月29日（水）午後6時30分～8時 公民館（集会室）
- ③令和7年10月30日（木）午後6時30分～8時 サニープレイス座間（多目的室）
- ④令和7年10月31日（金）午後6時30分～8時 東地区文化センター（第1集会室）

3. 参加者（全体）

年代別	人数	参加区分別	人数	住まい別	人数
10代以下	0	保護者	34	市内	106
20代	1	（うち未就学児の保護者）	3	市外（通勤）	8
30代	7	地域住民	51	市外（通学）	0
40代	30	教職員	2		
50代	23	その他	27		
60代	26				
70代以上	27				
合計					114

4. 質疑応答、意見交換内容

① 令和7年10月28日（火）イオンモール座間

No	項目	参加者質疑・意見	市回答
1	新しい学校づくり	魅力ある学校の実現には、既存の建物を改修しただけでは実現しないと思っている。 老朽化している建物を先に建替えていきながら、新しい学校を作っていくのが一つの方法だと思う。	本市は、築50年以上経っている学校施設が多い。 古い学校施設に関しては、基本的に建替えを考慮しており、今後の児童生徒数の推移をみながら、学校の建替えとともに学校再編を考慮している。
2	学校の防犯対策	小学校は不審者対策から、ガードが固くなっている。 学校に地域の人が入りにくいというのが、現状だと思うが、地域の人が入りやすい学校とし、先生たちが学校を管理するのではなく、地域で管理するという発想もあって良いと思う。	地域の方が目を光らせているのも防犯対策の一つだと考えているが、人の出入りについてはバランスが必要だと思う。 地域の方が学校に入る動線や関係者であることが分かる必要があると思うため、全国での取り組みを研究しながら進めたい。
3	体育館へのエアコン設置	体育館も老朽化が進んでいると思うが、エアコンの設置は、老朽化が進んでいるから設置できないのか。 体育館が暑くて大変であるとの保護者の意見が多い。 建替えしなければエアコンの設置ができないかもしれないが、いち早くエアコンの設置の検討をお願いしたい。	現在、設置に向けて検討をしているところである。 学校施設の建替えには時間がかかるため、建替え時に設置するのではなく、現在ある体育館に設置を考慮している。
4	中学校給食	現在は、仕出し弁当で実施しており、試食のときにおいしくて安心したが、冷たい時があることや衛生的な問題について意見を耳にする。 小学校と同じように食べられる環境を子どもたちのために提供して欲しい。	「ざま魅力ある学校づくり方針」の中では、全員喫食を目指すとしている。 それを実施するにあたって、どの方式がいいのか、教育委員会で検討しているところである。 今年度中に市の方針が決まる予定である。
5	望ましい学級数	望ましい学級数について、小学校3～4学級、中学校4～6学級となっている。 なぜ小学校は1学年2学級が望ましくないのか疑問に思っている。 2学級の学校の話を知ると、団結が強いということを聞いている。	2学級で上手くいっている例もたくさんあり、小規模の良さがあることも承知している。 一方で、多様性が求められる中、クラス替えにおいて配慮を要するケースが増えている。 2クラスではできる配慮も限られるが、3クラス以上になると、できる配慮の幅が格段に広がる。 また、教員の数がクラス数に応じて配置されるようになっているため、学級数が少ないと、教員数は少なくなる。 学校運営については、小規模校でも大規模校でも、ある程度同じであるため、小規模校になると少ない先生で学校運営を担わないといけない。 教師の働き方改革にもつながるし、子どもたちにとっても、色々な先生に関わるのはメリットだと考える
6	分散進学	同じ小学校から同じ中学校へ行かないことで救われる子どももいるのでは	小学校から中学校への進学については、小学校で苦しんでいても、中学校に上がる

		ないかと思う。	タイミングで関係の悪い子と別々の学校に進学することで解消されることもあると思う。 再編後、どのような条件で指定校変更を認めるかは検討段階だが、ある程度柔軟な対応ができれば良いと考えている。
7	学区と地区の整合	無理に地域と整合しなくてもよいのではないか。	学校運営をする上で、地域との関わりが重要だと思っており、地域と学校運営を更に連携するためには、整合が必要だと考えている。
8	通級指導教室	子どもの一人が通級指導教室に通っているが、現在、全ての学校に設置されていないため、保護者が送迎して通わせている。 学校再編するとき、全ての学校に通級指導教室が設置されるのか。	現在、小学校全校設置を目指して進めている。 なお、現在、中学校には設置されていないが、設置について方式などを検討しているところ。 また、学校再編に伴って統廃合を行う学校については、通級指導教室や特別支援学級なども含め、新しい学校として必要な環境を整えていく。
9	バリアフリー化について	障がいがある子どもについて、今後インクルーシブ教育を進められる中で、学校施設のバリアフリー化やエレベータ設置など検討しているのか。	学校再編の中で、エレベータ設置も含めたバリアフリー化を進めていくことを検討している。
10	再編に伴う入学後の転校	再編が進むと、小学校入学後に、転校することがあるのか、教えてほしい。	いずれかの時期においては、そういったケースが起こると想定している。 何か事情があり特別配慮が必要な場合についての相談は、就学支援課が窓口となる。予め再編先の学校へ進学することを選択できるようにする等、出来る限り影響が出ない方法を検討していく。
11	子どもを増やすこと	子どもたちを増やす環境づくりについての活動が必要なのではないか。	人口減少や少子化という問題は本市に限らず、全国的に起きている事象である。本市のまちづくりの最上位計画である「ざま未来プラン」においても、「人口減少社会に対応していく」と示しており、それに基づいた行政運営を行っている。
12	相模野小学校の整備	相模野小は、老朽化が進んでいるため、一旦更地にし、一時的に相模が丘小に通学してもらい、その更地のところに小中学校一貫校を建設するのはどうか。	一つのご意見として頂戴させていただく。
13	学区と地区の整合	自治会活動の中で、同じ学校に通っていることは重要。学校と自治会については非常に密接につながっているため、バラバラにならないようにしてほしい。	北部エリアでいうと、小松原1丁目と2丁目で学区が分断されているような状況があることは承知している。再編によって、出来る限り、地区との整合をとりながら学校再編を進めていきたい。
14	通学路の安全対策	再編に当たって、通学路を検討するときに、歩道橋が生きる形で配慮して欲しい。	再編時の通学路設定と安全対策は、今後の検討課題の一つであり、地域の実情を踏まえて、必要な安全対策を検討していく。

② 令和7年10月29日（水）公民館

No	項目	参加者質疑・意見	市回答
1	望ましい学級数	骨子案2ページの「1学年当たり望ましい学級数」はどこから導いたか。 参考になるかわからないが、組織論で言う「統制の限界」というものがあり、3～6人位しか一人の上司は見られないため、1学年3クラスの学校が一番適切になる。	学校再編計画の基となる「ざま魅力ある学校づくり方針」を策定した際、地域、PTA、学識経験者等で検討したほか、学校の先生や保護者からもアンケートを取った。 その中で、座間市として、魅力ある学校づくりを進める上で最適な規模を検討した結果である。 組織論については、一つのご意見として受け止めさせていただく。
2	学区の再編	学区の設定に当たっては、坂道が多い座間のことを考慮してほしい。 また、特別な事情がある子どもたちへの配慮もお願いしたい。	坂道が多い市なので、通学の負担など、総合的に判断しながら考えていきたい。 しかし、学校配置等から、どうしても通学の負担が厳しいところが出てくると考えており、特別な事情なども踏まえ、再編後の指定校変更を認める要件についてはある程度、柔軟な対応ができればと考えている。
3	学区の再編	西中学校区の再編は、座間小の方が入谷小よりも遠いエリアがあるので、そこを考えた方がよい。 それから、座間小は児童数が多く、入谷小は児童数が少ないので、これを頭に入れながら考えてもらいたい。	ご指摘の通り、座間小学校は学区が広く通学距離が長くなっている。 猛暑の中、長距離通学が負担だと考えている。 人数面では、座間小学校のスペースに余裕がないことなどから、人数と通学距離を含めて学区の再編を考えていく。
4	子どもの意見聴取	子どもの意見表明権を踏まえて、自分の知らないところで大事なことを決めることが無いよう、子どもの意見を聞いてほしい。	計画策定にあたっては、子どもたちの考えを聞くことが重要と考えている。 アンケートや一部ではあるかもしれないが、ワークショップなどで、子どもに参加してもらい意見を吸い上げて計画に反映したいと考えている。
5	部活動の地域展開	学校再編だけではなく、部活動地域展開についても子どもの意見を聞いてほしい。	今年の9月に小学校4年生～中学校2年生にアンケートを取った。 今後も、子どもたちの意見も取り入れながら、子どもたちにとってより良い環境が整備できるように体制を整えていきたい。
5	望ましい学級数	望ましい学級数の根拠が分からない。 子どもにとって、学校の中でコミュニケーションを取ることや、学校が居場所となるための規模というのは、クラスが少ない方が良いのでは。	小規模校の良さがあることも承知しているが、多様性を求められる時代の中で、個々に配慮を必要としている子どもが大変増えている。 人間関係が固定されがちで、苦しい思いをしている子に対して、様々な配慮ができるクラス替えの可能性などを考慮し、望ましい学級数を1学年3～4学級と定めた。
6	学校と地域の連携	地域が入るスペースがあるのは良いと思うが、子どもにとって負担にならないように配慮されるのか不安。	地域の方が出入りすることについて、賛否があることは承知しているが、防犯面などには十分配慮をしていく。 学校生活を送る中で子どもたちと先生だけではなく、地域の方と関わることによって、伝統継承や郷土愛を育めるなどメリットも大きい。
7	学区の再編	座間小がオーバーフローしているから、単純に入谷小に行かせようということでは困る。 地域のコミュニティがあり、子ども	人数だけで区切ると地域のコミュニティが分断されてしまうことは承知している。 座間小学校に余裕がないこと、地域のつながりへの配慮の両立が難しいこともある

		たちが困る。相当な影響が子どもたちにあるので、配慮してほしい。	かもしれないが、地域の実情を踏まえながら区分けしていこうと思っているので、その時々で意見をお願いしたい。
8	通学路の安全対策	座間小に通っている子どもが入谷小に行く場合は、県道51号線や相模線を越えることについて考えて欲しい。 道路には歩道橋、相模線に対しても跨線橋が必要。 子どもたちの安全を念頭において再編して欲しい。	再編時の通学路設定と安全対策は、今後の検討課題の一つであり、地域の実情を踏まえて、必要な安全対策を検討していく。
9	保護者への説明	説明会について、今日来ているような意識がある方々たちではなく、もっと必要なのは保護者だと思う。 仕事が忙しくて行けないという人も多いはず。 そういう人たちに来てもらい、或いは近づいて行って、対象となる人の参加を広げてはどうか。	今回は平日夜間に行ったが、今後、説明会を開催する際は、土曜午前など、子連れで参加できるような環境も考えていきたい。
10	スケジュールやコスト	学校の施設面での整備について、どのようなスケジュールで進めるのか保護者の方々が心配されること。 将来的にはこうなるのだけど、予算の関係で、ここまでは出来ないというのも説明して、理解を得ていく必要もあるのではないかな。	スケジュールやコストについては、素案や原案の段階でお示しする予定。
11	自転車通学	自転車通学の話もあったが、危険だと思う。	関係部署と連携しながら、必要な安全対策などの検討を進めていきたい。
12	再編に伴う子どもの精神的影響	再編に当たっては、精神的な問題が出てこないとも限らない。 どのようなフォローをすれば良いのかということを考えてほしい。 学校に行きたくないという子どもも出てくるかもしれない、それをどうするか。	カウンセラーによる相談や、サポートについて考えているほか、事前に交流活動を行って、合同授業や交流会といったイベントをとoshi、新しく仲間になる子どもや教員を知ることも考えていく。 また、学校のローカルルールなども教員間の連携を取り、子どもたちに影響が出ないように共有を図っていきたい。
13	スケジュール	色々な項目に対して、スケジュール化を図ればいいのだが、それが見えない。 どのくらいなら可能なのか、项目的に整理をしていく必要があるのではないだろうか。	現在のところは、骨子案ということで、大枠になっているが、素案以降では、スケジュールの話について、出来るだけわかりやすく示していきたい。
14	学区と地区の整合	座間小から入谷小に移動させないといけないという話が出てくるが、地区自治会連合会区にとられると上手くいかないと思う。 市自治会総連合会では、学区と自治会区の乖離が問題だと認識しているが、地区自治会連合会を再編してしまうという方法もある。 新田宿と四ツ谷を分けるのは理解してもらえるかもしれないが、新田宿内でとなると抵抗があると思う。	市自治会総連合会の意見なども聞きながら、素案作成につなげていきたい。
15	成功事例の紹介	学校がどう変わるのかということについて、シームレスでユビキタスオフィスなものに見え、一見良さそうだが、実際に良いのかどうか分からない。	事例については、今後説明の際に好事例を提示できればと思っている。

		他自治体などの成功事例が提示できれば安心できると思う。 次の素案の説明会の際には、そういうもの入れてもらえたらと思う。	
--	--	--	--

③ 令和7年10月30日（木）サニープレイス座間

No	項目	参加者質疑・意見	市回答
1	学区と地区の整合	コミュニティスクールを推進するの に、地区と学区の一致は必要。	ご意見のとおりだと考えている。
2	地域のコミュニティスペース	新しい学校には地域の集会所を作 ってほしい、そうすれば自治会で持っ ている集会所を廃止し、結果的に市から 支出する補助金を減らすこともでき る。	新しい学校の中に、地域の方も集え る空間づくり、複合化なども考えてい きたい。
3	計画期間	計画期間を20年としているが、せ めて10年にできないだろうか。 海老名市では学校が増えるかもとい う話があるが、学校をもう一度作ろう とは思わないと思う。 学区を変えるのはいいが、学校を無 くするのは賛成できない。 スパンを短い期間にして、計画を練 ることはできないか。	海老名市の例では、かなり大規模な 開発が起因している。 統廃合の結果、学校数が足りなくな るといった事態が起きないように、マン ションや宅地等の開発動向を見ながら 進めていく。 計画は3～5年おきに見直すため、 計画期間については20年のままとし たい。
3	1クラス当 たりの人数	今の小・中学校は何人学級か。	小学校は35人学級、中学校は40 人学級だが、来年から中学1年生から 順次、35人学級になる。
4	説明会等の開 催方法	開催日時により、説明会に参加でき てない親がほとんどだと思う。 できれば、昼間の開催というのも、 ワークショップを含めて、そういった 時間に開催してほしい。 また、今回の説明会を録画して、公 開してもらうことはできないのか。	今後開催する説明会等の際に参考に させていただく。 今回の説明会での録画公開は準備が 出来ていないため、難しいが今後検討 させていただく。
5	少人数クラス	1クラスの人数を減らして、密な教育 を希望したい。 クラス数が少ないと、人間関係が硬 直してしまうというのがあるが、少な い人数だからこそ、対話を通した授業 を図れると思う。 (再意見) これからは、皆で同じ授業を聞いて 学ぶのではなく、自分たちの興味にあ ったプログラムに変わっていくと聞 く。 そうすると、クラスに縛られない授 業形態になるので、子ども同士のトラ ブルや先生との相性も変わるかもしれ ない。	1クラス当たりの人数が少なくな ると、目が行き届くなどメリットは承知 しているが、教員の配置は国が決める ため、30人学級／教員1人の要望は 国にしていきたい。 多様性を求められる時代の中、クラ ス替えなどで配慮を求められる子ども が増えている。 学級数が1クラスや2クラスではで きる配慮も限られるが、3クラス以上 になると、できる配慮の幅が格段に広 がる。 また、小規模校では、少ない教職員 での学校運営が必要になる。 専門性や経験年数など、バランスの 取れた先生の配置が必要だと思うが、 小規模校だと偏った配置になるという ことも考えられるので、ある程度の学 級数の規模が必要だと考えている。 (再回答) これから求められる学校の教育は、 我々が受けてきた授業形態とは変わ ると思うが、学校再編の部分で議論に なってくるのは、クラス数がどうなっ てくるのかということ。 国の基準があるので、本市で独自に 設定することは難しい。 国の状況に基づきながら、教員も、

			子ども達がいかに楽しく、自分たちで学んでいける力を身に着けていけるか、授業改善に取り組んでいかないといけないと思っている。
6	再編の進め方	学校の立地条件について考慮しながら進めて欲しい。 斜面に作られている学校やグラウンドに200メートルのトラックが取れない学校がある。	立地条件についても、当然考慮しながら進めていく。
7	再編の進め方	建物の経過年数の記載があるが、創立年度や設立の経過・歴史も大事にして欲しい。	創立年度や歴史背景も踏まえるが、望ましい学校規模、学校配置の実現を念頭に総合的に判断しながら進めていきたい。
8	避難所	各小・中学校が避難所に設定されていると思うが、将来的に統合して小・中学校が減った場合、収容人数がオーバーしないか。 将来的に、避難所開設に関する見解があれば教えて欲しい	学校数の減少によって、市全体の指定避難所数は減少する可能性が高い。 現状においても、全ての被災者が指定避難所に避難することは現実的に困難なため、自宅や地域の集会所等で生活を継続していただく必要があり、そのための取組を進めているところ。
9	教員の人材育成	オープンスペースはすてきだと思うが、それを作っても、従来の教育から変わらないといけない。教員の人材育成として何か考えているのか。	各学校が、大学教授等の講師を招いて授業改善に向けた研究会を行っており、教職員向けに授業改善の研修会も行っている。 教職員が子どもたちに、どんな力をつけさせたいのかを明確にして、学校運営・校内研究を行っていききたい。
9	再編前の学区選択	20年の長いスパンで再編計画をしていると思うが、近々で学区編成に意見を言える、行きたい学校はどこですかというのを、皆さんに聞いてみるのも手ではないかと思う。 通学路が暗いなどの理由に防犯面で不安を抱えている保護者もあり、中には、学校を変えるために引っ越しをしている家庭もある。	本市では、学区制を取っている。 自由選択制を設けている自治体もあるが、メリット・デメリットは両方ある。 本市でも、要件に当てはまった場合には、指定校変更を認めているが、要件に当てはまらないが変更したいという人がいるということも承知している。 再編に向けては、区割りを変更する上で通学路等地域の実情等も考慮していきたいと考えているが、再編前に制度を大きく変えることは検討していない。

③ 令和7年10月31日（金）東地区文化センター

No	項目	参加者質疑・意見	市回答
1	1クラス当たりの人数	望ましい学校規模について、1学年当たりの学級数ではなく、1学級当たりの児童生徒数で、考えるというのはどうか。	1学級当たりの児童生徒数は、国の基準で定められているものであり、その基準に基づいた学級数に応じて、教員の数が決まる仕組みとなっている。
2	子どもの意見聴取	障がいを持っているお子さんや、不登校問題、国際教室も増えていると思います。 アンケートなどで子どもたちの意見を聞くことはあるのか。	計画策定にあたっては、子どもたちの考えを聞くことが重要と考えている。 アンケートや一部ではあるかもしれないが、ワークショップなどで、子どもに参加してもらい意見を吸い上げて計画に反映したいと考えている。
3	市民参加	学校再編を検討するにあたり、市民公募などは検討しているのか。 学校運営協議会に意見を聴取するなど検討していただきたい。	計画策定にかかる市民参加としては、住民説明会やワークショップをとおり意見聴取を行うことで、市民意向を反映させることを考えている。 必要に応じて、関係団体等への説明や意見聴取を行う想定。
4	通学路の安全対策	保護者として、統廃合で一番気になっている所は、子どもたちが安全に学校に行けるかである。 自転車通学を考える中で、交通事故が一番気になる。 また、不審者の情報などもあると思う。 子どもたちの安全について検討してほしい。	再編時の通学路設定と安全対策は、今後の検討課題の一つであり、地域の実情を踏まえて、必要な安全対策を検討していく。
5	通学距離	小学校1年生にとって、今の通学距離は長距離で大変だと感じている。	通学距離については、子どもたちの安全を考える上でも、重要であると考えているため、十分検討していく。
6	1クラス当たりの人数	東原小は1クラス25名～30名程度で、子どもたち一人ひとりに温かい目が行き届きやすくなっている体制だと思う。 是非、続けて欲しい。	小学校のクラスの人数については、国の基準で1学級あたり35人が上限と決まっている。 例えば、3学級105人の学年は1学級あたり35人となるが、そこに転校生がきて106人になると、4学級となり1学級あたり26人程度になる。 市としては、1学級あたりの人数の上限を減らすよう、国に要望をあげている。
7	学校と地域の連携	今後、高齢化社会に向けて、学校で何ができるかを考えた時に、学校の余裕スペースを用いて、将棋、囲碁などができるスペースなど作っていただければ、高齢者の居場所づくりに役に立つと思う。	ご意見の様なスペースを作って、子どもと高齢者が一緒に遊んだり、学んだりすることで、地域のコミュニティを作ることは、学校と地域の相互にメリットがあることだと思っている。
8	学校と地域の連携	これから統廃合を進めていく上で、子どもの意見を聞いていくとのことでしたが、防犯面についてはどうか。 私は中学生のころ、学校の中で怖い思いをしたことがある。 学校の中に外部の人がいるのは私としては嫌である。中学生と保育園児の孫がいるが、複合化についてどう思うか、娘に確認したところ怖いとのこと	学校の中に地域の人が入ることについて、懸念があるのは、おっしゃる通りである。 不特定多数が自由に入る環境ではなく、この辺りは事例を踏まえて、検討していきたい。 一方で、地域の方たちと子どもたちも含めて繋がりが深くなっていけば、そこに信頼関係が生まれていくと考え

		だった。そういう意味で学校の中に外部の人を入れるのは反対である。	ている。 希薄だからこそ心配や不安になると思うため、コミュニティ・スクールなどを活用して、地域の繋がりを強くしていきたい。
9	通学路の安全対策	現状でも通学路は危ないと感じている。安全を確保する上で歩道の整備は必要だと思う。	再編時の通学路設定と安全対策は、今後の検討課題の一つであり、地域の実情を踏まえて、必要な安全対策を検討していく。
10	子どもの意見聴取	こども基本法が2022年にでき、こども施策を策定するとき、こども等の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっているが、こども家庭庁から自治体向けに発出されたQ&Aに沿った、こどもの意見のフィードバックは行うのか。	子どもの意見聴取は重要と考えている。子どもたちはタブレットを所有しているので、タブレットを活用したアンケート実施ができないか検討している。また、一部の子どもに限られるが、ワークショップに参加してもらうなどの様々な方法を考えている。 計画策定においては、こども以外にも保護者や地域の方など様々な関係者からの意見を聴取し、総合的に判断しながら進めていく。
11	将来推計	10年後でなく、20年後の将来推計を根拠にしている自治体は少ないと聞いたが、そのことについてどのように考えられるのか。	我々の承知している限りでは、学校再編計画において、20年後の将来推計を根拠としている自治体は少ないと認識している。 なお、20年という計画期間中に、社会情勢の変化等も当然あると想定しているため、毎年度将来推計の更新を行い、必要に応じて3年から5年おきに計画を見直すこととしている。
12	児童ホーム	児童ホームについて、授業が終わったあと、他の施設に行くのではなく、学校の中で実施してもらえればと思う。	同じ建物内に入るかは、セキュリティ面における動線などの課題があるので、所管部署と連携し、今後検討していく。
13	分散進学	東原小は、南中と東中とに分散進学する学校です。 私の住んでいる地域は、東中への進学対象地域になる。 東原小学校から東中学校に進む子は少ないという話が保護者の間ではある。 子どもは、ほとんどの友人が南中に進学するので南中に行きたいと言っている。 進学した際、子どもたちの不安をなくすため、分散進学をなくすという話だが、自由に進学先を選ぶことはできないのか。	本市では、学区制を取っている。 自由選択制を設けている自治体もあるが、メリット・デメリットは両方ある。 進学先を自由に選ぶことについては、今のところ検討していない。